

執務用

土地分類基本調査

「瀬戸」・「明智」・「根羽」

5 万分の 1

国 土 調 査

岐 阜 県

1 9 8 6

序 文

この調査は、限りある国土をより高度で合理的に利用するため、土地の実態を科学的方法で体系的かつ総合的に把握しようとするもので、国土調査法に基づき昭和57年度から実施しています。

これは昭和58年度および昭和60年度に調査した、5万分の1地形図「瀬戸」・「明智」・「根羽」図幅のうち、岐阜県の県域について調査したものをとりまとめ、「瀬戸・明智・根羽」図幅としてその成果を報告するものであります。

この調査の実施に当って協力いただいた関係各位に対し深く感謝申し上げますとともに、この成果が今後、土地利用の企画立案に当たって広く活用されることを希望します。

昭和62年3月

岐阜県企画部長 足立 綱夫

ま え が き

1. 本調査は、岐阜県が国土庁土地局国土調査課の指導を得て、実施したものである。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4号の2の規定による土地分類基本調査図および土地分類基本調査簿である。
3. 本調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、下記のとおりである。

総括	岐阜県企画部土地対策課	課長	福田 賢治
	〃	課長補佐	井戸 武正
	〃	調査指導係長	鈴木 信義
	〃	技術主査	丹羽 信幸
地形分類調査	岐阜大学教育学部	教授	関根 清
表層地質調査	〃	〃	梶田 澄雄
土 壌 調 査	岐阜県農業試験場	主任専門研究員	辻 勝司
	〃	〃	古橋 勝幸
	岐阜県林業センター	専門研究員	中村 基
	〃	〃	中川 一
土 地 利 用 現 況 調 査	〃	技 師	川尻 秀樹
	岐阜県企画部土地対策課	主任技師	服部 富雄
	〃	〃	小池 芳雄

目 次

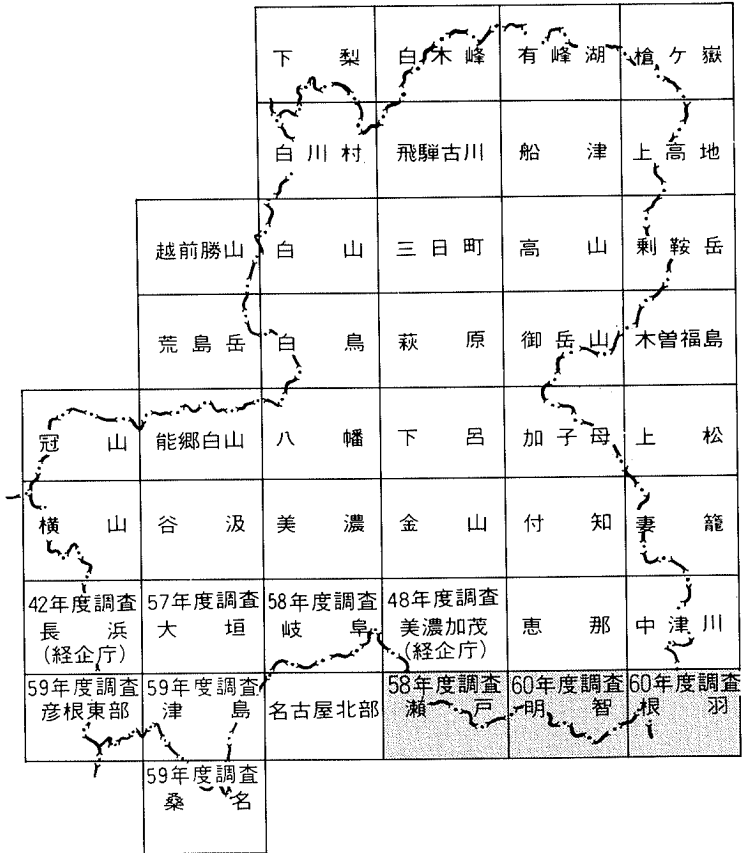
総 論

I 位置および行政区画	1
II 人 口	2
III 産 業	4

各 論

I 地 形 分 類	9
II 表 層 地 質	15
III 土 壤	19
IV 土地利用現況	33

位置図



總

論

I 位置および行政区画

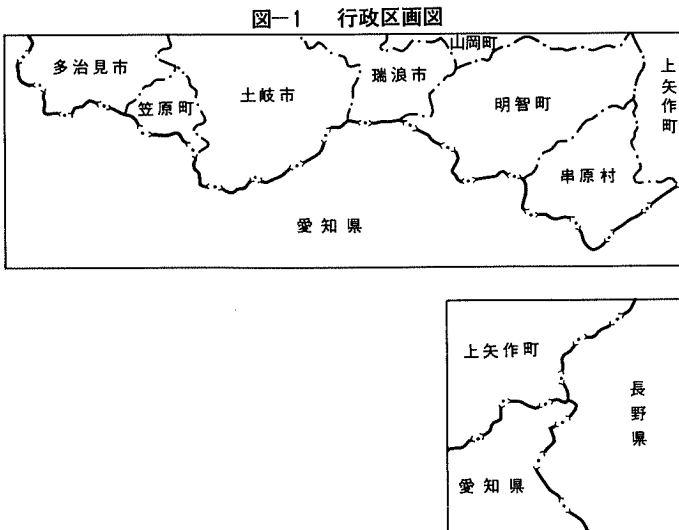
1. 位置

この調査の対象区域は、建設省国土地理院発行5万分の1地形図の「瀬戸」「明智」「根羽」図幅のうち岐阜県域分であり、経緯度東経 $137^{\circ} 00'$ ～ $137^{\circ} 45'$ 、北緯 $35^{\circ} 10'$ ～ $35^{\circ} 20'$ の範囲である。

これは、岐阜県の東南部に位置し、南側は愛知県、東側は長野県に接しており、面積は約339kmである。

2. 行政区画

本図幅の行政区画は、多治見市、瑞浪市、土岐市、笠原町、山岡町、明智町、串原村、上矢作町の3市4町1村からなっている。(図-1参照)



Ⅱ 人 口

調査地域にかかる3市4町1村の人口は221,436人（昭和60年国勢調査）で、県人口の10.9%を占めている。これらの市町村では、昭和45年から昭和60年までに約25,400人の人口増をみたが、この間の増加率は県平均の15.3%に対し、12.9%と若干低い値を示している。

調査区域の最西部に位置し、地域の中心都市である多治見市は、昭和45年

表-1 人 口

区 分 行政区域	昭 和 4 5 年		昭 和 5 0 年		昭 和 5 5 年	
	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)	人 口 (人)	世帯数 (戸)
多 治 見 市	63,522	15,828	68,901	18,110	74,311	20,702
瑞 浪 市	38,279	8,839	39,374	9,475	40,066	9,969
土 岐 市	60,786	14,634	63,329	15,832	65,038	17,079
笠 原 町	13,324	3,118	13,273	3,368	13,501	3,646
山 岡 町	6,478	1,479	6,113	1,464	5,974	1,439
明 智 町	8,109	1,967	7,835	2,022	7,773	2,064
串 原 村	1,637	373	1,313	327	1,225	314
上 矢 作 町	3,935	957	3,685	919	3,564	914
計	196,070	47,195	203,823	51,517	211,452	56,127
岐 阜 県	1,758,954	433,394	1,867,978	483,766	1,960,107	539,740

から昭和60年までに約21,300人、33.5%という急激な人口の増加をみている。これは、中央線の複線化、電化および中央自動車道の開通をはじめとする、交通網の整備により、名古屋市への通勤が容易となり、市内各地に宅地開発が行なわれたためである。

一方、東部山間地に所在する町村においては、人口の減少傾向は続いているが、その減少率は小さくなってきている。

昭和60年		人口増減(人)			人口増減率(%)		
人口(人)	世帯数(戸)	45~50年	50~55年	55~60年	45~50年	50~55年	55~60年
84,829	23,797	5,379	5,410	10,518	8.5	7.9	14.2
40,078	10,151	1,095	692	12	2.9	1.8	0.0
65,308	17,639	2,543	1,709	270	4.2	2.7	0.4
13,038	3,540	△ 51	228	△ 463	△ 0.4	1.7	△ 3.4
5,969	1,460	△ 365	△ 139	△ 5	△ 5.6	△ 2.3	△ 0.1
7,625	2,059	△ 274	△ 62	△ 148	△ 3.4	△ 0.8	△ 1.9
1,192	326	△ 324	△ 88	△ 33	△ 19.8	△ 6.7	△ 2.7
3,397	926	△ 250	△ 121	△ 167	△ 6.4	△ 3.3	△ 4.7
221,436	59,898	7,753	7,629	9,984	4.0	3.7	7.7
2,028,536	567,946	109,024	92,129	68,429	6.2	4.9	3.5

資料 昭和60年国勢調査結果による。

Ⅲ 産 業

1 農 林 業

地域内の市町村の総農家数は、7,288戸で、これは県下総農家戸数の6.5%にあたり、また経営耕地面積は3,548haで、県下総経営耕地面積の5.0%を占めている。

表一2 農業の概要

区分 行政 区域	農 家 数				経営 耕地 面積 (ha)	農 業 粗 生 産 額 (百万円)				
	総 数 (戸)	専 業 (戸)	兼 業 (戸)	事業率 (%)		総 額	米	野菜	畜産	その他
多治見市	779	56	723	7.2	242	747	198	108	415	26
瑞浪市	2,642	124	2,518	4.7	1,230	6,467	990	305	5,018	154
土岐市	1,413	53	1,360	3.8	453	1,221	372	159	647	43
笠原町	186	2	184	1.1	42	58	33	19	2	4
山岡町	824	41	783	5.0	758	1,391	546	139	627	79
明智町	708	44	664	6.2	417	980	308	97	460	115
串原村	245	31	214	12.7	121	349	61	46	202	40
上矢作町	491	40	451	8.1	285	603	140	47	297	119
計	7,288	391	6,897	5.4	3,548	11,816	2,648	920	7,668	580
岐阜県	112,848	6,660	106,188	5.9	71,500	173,615	56,669	32,657	63,057	21,232

資料 岐阜県農林水産統計年報（昭和60～61年）による。

農家数は1985世界農林業センサスによる。

地域内の明智町、串原村、上矢作町においては、こんにゃくいもが栽培され、本地域の特産品となっている。

また、畜産の生産額は、県下総畜産生産額の12.2%を占めているが、このうち71.8%に当る5,502百万円は鶏肉、鶏卵であり、うち瑞浪市は約4分の3を占め、大規模な企業経営による、鶏卵の生産が盛んである。

地域内の林野面積は、52,565haで地域総面積の50.4%を占めている。このうち民有林の人工林率は約50%と県下平均42%を上廻り、その樹種の大半はヒノキである。

表一 3 林業の概要

行政区 区域	林 野 面 積 (ha)				林 家 数 (戸)
	総 数	国 有 林	公 有 林	私 有 林	
多 治 見 市	4,388	38	582	3,768	916
瑞 浪 市	13,297	669	1,652	10,976	1,912
土 岐 市	8,315	453	2,177	5,685	1,075
笠 原 町	746	332	274	140	112
山 岡 町	4,527	12	556	3,959	745
明 智 町	5,560	74	702	4,784	625
串 原 村	3,311	247	230	2,834	251
上 矢 作 町	12,421	4,209	1,471	6,741	752
計	52,565	6,034	7,644	38,887	6,388
岐 阜 県	875,194	184,806	69,465	620,923	64,162

資料 岐阜県林業統計書（昭和59年度）による。

林家数は1980世界農林業センサスによる。

2 工 業

地域の工場数は県下総工場数の16.6%にあたる4,347事業所であり、その年間製造出荷額は、県下の9.1%にあたる4,032億円である。このうち窯業・土石製品製造業は、73.8%にあたる2,975億円であり、県下全窯業、土石製品製造業の製造品出荷額の55%にあっている。

これは、本地域が良質の陶土を産出し、古くから地場産業として発達してきたものであり、このため、地域西部の多治見・瑞浪・土岐の各市を中心に、地域各所にこの陶土の採取場およびその跡地が点在している。

表一4 工業の概要

区分 行政区域	工 場 数				従 業 者 数 (人)			年間製造品 出荷額等 (円)
	総 数	会 社	組合その他 の法人	個 人	総 数	常 用 労働者	個人事業主 及び家族 従業員数	
多治見市	1,251	315	4	932	10,820	9,238	1,582	11,121,238
瑞 浪 市	588	179	9	400	6,803	6,103	700	7,386,917
土 岐 市	1,893	395	6	1,492	15,493	12,846	2,647	13,494,350
笠 原 町	365	111	0	254	3,576	3,193	383	4,643,518
山 岡 町	161	51	6	104	1,162	1,009	153	1,177,564
明 智 町	67	29	4	34	1,632	1,575	57	2,250,882
串 原 村	3	1	0	2	39	—	—	5,953
上矢作町	19	11	0	8	266	253	13	244,317
計	4,347	1,092	29	3,226	39,791	34,217	5,535	40,324,739
岐 阜 県	26,201	7,171	331	18,699	274,360	241,584	32,776	441,128,162

資料 昭和60年度、工業統計調査結果による。

3 商 業

地域の商店数は4,589店舗であり、県下総商店数の12.5%、また、年間販売額は4,840億円で県全体の10.2%を占めている。

表—5 商業の概要

行政 区域	商 店 数			従 業 者 数 (人)	年間販売額 (円)
	総 数	卸売業	小売業		
多 治 見 市	1,877	771	1,106	9,260	22,835,179
瑞 浪 市	755	145	610	2,919	6,538,583
土 岐 市	1,400	514	886	5,886	13,585,290
笠 原 町	294	155	139	1,224	4,237,671
山 岡 町	62	5	57	287	426,572
明 智 町	144	11	133	483	640,485
串 原 村	15	—	15	36	28,720
上 矢 作 町	42	—	42	123	108,349
計	4,589	1,601	2,988	20,218	48,400,849
岐 阜 県	36,698	8,007	28,691	163,378	474,319,112

資料 昭和60年・商業統計調査結果による。

(飲食店・代理商・仲立業を除く)

各論

I 地形分類

1 地形概説

中部地方から近畿地方北部にかけては、全体的には南北方向に軸をもつ東高西低のうねり状の構造地形を示している。そのうねり状の波長は70km～100kmの幅をもっている。このような褶曲運動が進行すれば傾斜の変換部に応力が集中し、歪みの蓄積のために逆断層が発生し、上盤岩体は傾動地塊となる。また、中部から近畿地方北部にかけては共役関係にあるせん断性の断層による横ずれ断層で囲まれた断層地塊も顕著で、応力軸に直交または平行方向に押しひろげられるように地塊が傾動しており、岡山の接峰面からもうかがえるようにモザイク板を合せたような地塊運動を行なっている。東高西低の濃尾傾動地塊運動はその好例の一つである。このようなうねり構造と地塊構造とが複雑に関係しあって中部地方の大地形は形成されている。本図幅の地域は濃尾傾動地塊運動の東端部に位置している地域である。

本図幅の地域はその主要部を三河山地の北部山地から尾張山地に至る山地地域が占めている。そして図幅の西端部に土岐川が、南端部に矢作川が位置している。

定高性を有する三河山地の北端は地高200～300mの屏風山断層崖で境されている。この屏風山断層崖は恵那山の北西縁をかぎり南西方向にのびる断層崖である。この屏風山断層崖の南側にはこれとほぼ平行的に恵那山断層が位置している。屏風山断層崖の北西側には多治見や土岐の両盆地が位置し、恵那山断層崖下には岩村（図幅外）や猿爪などの小盆地や沖積錐が断続的に位置している。

これらの盆地や三河山地の縁辺部には中新世の瑞浪層群からなる丘陵が位置している。土岐盆地内には土岐川によってつくられた河岸段丘も位置している。

山地の一部や丘陵を被って鮮新——更新世の瀬戸層群が広く分布している。粘土や砂礫の陸成層からなる、この瀬戸層群は木曾川と土岐川流域に分布するものと矢作川流域に分布するものに大別される。前者の流域に分布する瀬

戸層群は土岐口陶土層とこれを不整合に被う土岐砂礫層よりなる。後者の瀬戸層群は瀬戸陶土層とこれを不整合に被う矢田川累層とからなる。瀬戸陶土層は基盤岩類や瑞浪層群を切る侵蝕小起伏面の凹地をおおって堆積した層厚20～30mの砂と粘土とを主とした互層からなる。

土岐口陶土層と瀬戸陶土層は陶磁器の原料となる粘土層を多量に包含するために往時より採掘されてきた。特に戦後の高度経済成長期の採掘は大規模化した。このために本図幅内の地域は汎日本的にも著しい人為的地形改変が行なわれた一つの地域でもある。

2 山地

本図幅内の山地は中部地方の地殻運動の特徴の一つであるうねり状の構造地形的観点からは飛騨高原・美濃山地（高原）・三河山地（高原）と続くほぼ南北配列のうねり状構造の一つの凹部に位置している。地塊構造的観点からは東高西低の濃尾傾動地塊の東端部に位置している。しかし、本図幅内では三河山地全体がうねり状構造の一つの凹部にあたるために傾動地塊的構造が一層顕著に認められる。

本図幅内の山地について、ここでは尾張山地、三国山・猿投山山地、三河山地に細分した。

(1) 尾張山地 (1a)

尾張山地は濃尾平野からその東側に位置する最初の山地・丘陵部を形成する山地である。そして尾張山地は美濃加茂盆地と多治見盆地の西端は華立断層崖によって境されている山地でもある。本図幅内には尾張山地の南端部が位置している。

多治見盆地内を南西流していた土岐川はこの尾張山地内に穿入曲流のみられる定光寺峡谷なる先行谷を形成し、庄内川と河川名を変えて南西流して濃尾平野へと流下する。

尾張山地は高度300～400m前後の頂稜部に小起伏面を残している定高性の山地である。これらの小起伏面は三河小起伏面と呼ばれている。道樹山

(429m)を中心とした山地は、中生代の砂岩、頁岩、チャートなどからなる晩壯年期状の山形を呈する中起伏山地からなっている。

(2) 三国山・猿投山山地 (Ib)

本山地は三国山から愛知県内の猿投山に至る山地でこの附近にひろがる高原状を呈した三河山地（三河小起伏面）やこれに隣接する丘陵からは屹立した700～600mの高まりを形成している。山地の頂稜部には遷急点以高に全体として西方に高度を漸減する小起伏面が分布している。

岡田（1979）が言及しているように本山地は恵那山地の隆起帯の南西延長部に位置しており、猿投山北断層が本山地の中央部を北東から南西方向に斜断しているために、北部の三国山山塊と南部の猿投山山塊に細分される。三国山のすぐ東ではこの断層線をはさんで北西側山地が南東側に比べて約200m高くなっている。また、猿投山北断層の特徴は河谷にも現われていて、この断層線上で河谷は系統的な鍵状の屈曲形態を示している。この猿投山北断層はA級（平均変位速度10～1 m/1000yrs）の右横ずれ活断層であるといわれており、濃尾傾動地塊の東縁を限る境界線をこの断層に求めることができる。

(3) 三河山地 (Ic)

三河山地はその北端を恵那山に発し、南西方向に瀬戸市の北方までのびる屏風山断層崖によって中津川・恵那・土岐などの盆地群と限られている。この屏風山断層崖は鮮新一更新世の土岐砂礫層の上に花崗岩からなる基盤を押し上げた逆断層からなる活断層であり、その時期は更新世初期から中期と推定されている。

三河山地は北東高南西低の高度1,000m内外の定高性の山地であるが、山頂高度の低下は南西へ向って漸移するのではなく、比高200～300mの急斜面からなる3段の階段状を呈する小起伏面からなる。これら3段の小起伏面は北から高度1,100～1,000m山地からなる段戸小起伏面、高度900～700mの山地からなる串原小起伏面と矢作川・足助川の両岸一帯にひろがる高度

600～400mの山地からなる三河小起伏面と呼ばれている地形面からなっている。段戸小起伏面は段戸山附近を南限とし、串原小起伏面は岩村町南部から上矢作町を経て岐阜と愛知の県境に位置する串原村に至る地域に分布している。串原村は串原小起伏面と三河小起伏面とが接する地域である。

3 丘 陵

本図幅内の丘陵は土岐砂礫層によって地形面を形成している丘陵である。それ故に、丘陵の頂部に平坦面が散在している。地形面を形成している土岐砂礫層の下位には瀬戸層群の土岐口陶土層がみられ、この陶土層の採掘のために特に大規模な人口的地形改変が行なわれた地形が丘陵であるともいえる。

(1) 多治見丘陵（Ⅱa）

本丘陵は多治見盆地の盆地底に位置する多治見市の市街地域の南半部を包囲するように分布している。丘陵の頂稜部に土岐砂礫層が堆積し、平坦な地形面を残存させているが、地形面の開析（侵蝕）も進み、尾根と谷の関係を複雑にしている。丘陵斜面の中腹や基部には瑞浪層群や土岐口陶土層が露出している。この陶土層は往時より、この陶磁器の原料として採掘されてきた。高度経済成長期を通して一層大規模な採掘が行なわれたために地形改変が著しく進んだ地域であるといえる。最近ではこれに加えて都市化の進展に伴ない工場や住宅の建設も著しく、一層人工的地形改変が進んでいる。

(2) 土岐丘陵（Ⅱb）

本図幅内に位置する土岐丘陵はその南端部であり、瀬戸図幅の北東端に位置する。丘陵の頂稜部には土岐砂礫層からなる平坦面が残存するが、多数の谷によって地形面が開析されているために小規模で変化に富んだ地形を呈している。陶土層の採掘などで人工的地形改変の著しく進んだ地域である。

4 台 地

本図幅内の台地は屏風山断層崖下に分布する隆起扇状地、土岐川と矢作川

の両河谷沿いに分布する河岸段丘からなりたっている。これらの台地はいずれも明瞭な急崖をもって低地とは境されている。前者は笠原町、妻木川や肥田川などの河川が屏風山断層崖下に形成した扇状地とこれに連続する緩斜面からなる。後者は両河川の河谷内において最もよく発達している段丘面からなり、中位段丘に対比される段丘面である。

(1) 屏風山断層崖北縁台地 (Ⅲ a)

この台地は多治見低地に注ぐ笠原川と土岐低地に注ぐ妻木川や肥田川などが先行谷を形成して流下する三河山地北端部の屏風山断層崖下に形成された扇状地と、これに連続する緩斜面からなる台地である。これらの台地はすでに形成期を終了（化石化）し、開析が進行している隆起扇状地と緩斜面である。

陶磁器用の陶土の採掘と、工場や住宅建設にともなう人工的地形改変の進んでいる地形でもある。

(2) 土岐川河岸段丘台地 (Ⅲ b)

この台地は土岐川の河谷沿いにひろく分布する河岸段丘からなる台地であるが、本図幅内には多治見市街地の南に分布する台地が位置している。この台地は多治見市街地の位置する谷底面からは高度7 m内外の段丘崖をもって明瞭に境されている。この台地を構成している段丘礫層は卓越粒径10cm未満の円礫からなる。

(3) 矢作川河岸段丘台地 (Ⅲ c)

この台地は三河山地内の恵那郡串原村と上矢作町にわたる矢作川と支流の上村川の河谷沿いに形成されている河岸段丘からなる台地にある。この地域では河谷沿いの山腹斜面は急傾斜からなりこの段丘面が河谷内では唯一の平坦地であるので、集落の立地位置や日常生活の生活空間の場を提供している。

5 低 地

本図幅内の低地は土岐川沿いに形成されている沖積低地である。

土岐川は中部地方の地殻運動の影響を反映させて北東から南西方向に走る地質的弱線沿いに屏風山断層崖に平行して流下し、多治見市南西で尾張山地を定光寺峡谷なる先行谷をうがって貫流し、濃尾平野に流入している。定光寺峡谷以東では土岐川は三河山地や瑞浪・土岐丘陵や土岐・多治見盆地内を貫流している。本図幅内には多治見・土岐両盆地の一部が位置している。

(1) 多治見・土岐川低地 (Ⅳa)

この流域は多治見盆地の谷底面であり、本図幅内にはこの南半部地域が位置している。多治見市の市街地がここに位置する。この盆地は下流側を中世界の砂岩・頁岩・チャートなどからなる尾張山地によって、上流側を瑞浪層群からなる丘陵によって土岐盆地と境されている。谷底面には洪水時の氾濫の所産である自然堤防が分布している。

(2) 土岐・土岐川低地 (Ⅳb)

この地域は土岐盆地の谷底面である。本図幅内には土岐川の支谷である妻木川、肥田川の谷底面が位置している。土岐市や瑞浪市の市街地は土岐川の谷底面上に位置している。土岐盆地の東部においては中位段丘下に低位段丘が認められるが、西部の下流側にかけて沖積面下に埋没している。そして、これにかわって自然堤防が分布するようになる。

Ⅱ 表層地質

1 表層地質概説

本図幅地域の基盤を構成するものは、中生界と花崗岩類である。

中生界は美濃山地に広く分布する中・古生界の一部で、ほぼ東西方向の走向を示し、図幅内では主に東辺および土岐市曾木町付近に露出している。

花崗岩類は伊奈川花崗岩と呼ばれるものが主体で、図幅の西部を除いて最大の分布を示している。

以上の基盤岩類を不整合に覆って、中新統の陸成の土岐狭炭層と海成の瑞浪層群が分布する。さらに、これらの岩類・地層を不整合に覆って、鮮新統の瀬戸層群と呼ばれる陸成層が広範囲に分布する。瀬戸層群は、下部の粘土・砂を主体とする陶土層と、上部の円礫を主体とする砂礫層よりなる。土岐川、矢作川の流域には河岸段丘がみられる。

図幅内を北東東—南西西に走る断層群によって地層の基底高度が大きく転位している。

2 地表地質細説

(1) 未固結堆積物

a) 礫がち堆積物 (g)

土岐川、矢作川流域に分布する段丘堆積物と山間の低平部を埋積して発達する沖積層および段丘堆積物を一括した。山間低平部の場合には礫がち堆積物と区分したところでも、農耕地は薄い細粒の農耕土に覆われている。

(2) 半固結堆積物

a) 礫および粘土 (gc)

本層は瀬戸層群上部の土岐砂礫層および明智礫岩層と呼ばれるものに該当する。図幅西部の北東東—南西西方向の断層群を境にして分布が大きく異なる。

本層はおもに砂礫層からなるが、ところによっては粘土の薄層が挟有される。礫の種類は中・古生層起源の砂岩、チャート、ホルンフェルスおよび濃紋流紋岩などからなり、礫はよく円磨され径30cm以下で径3～5cmのものももっとも多い。風化が進んでおり、いわゆる「くさり礫」になっているところが多い。

b) 粘土・砂および礫 (cs)

本層は瀬戸層群下部の土岐口陶土層と呼ばれるものに該当する。前述の土岐砂礫層に覆われて分布するが、その分布範囲は土岐砂礫層よりは狭い。おもに蛙目粘土、木節粘土、珪砂、白粘土、シルトよりなり、亜炭などの炭質物、凝灰岩や礫が挟有される。

図幅内は本邦有数の耐火粘土、珪砂の産地で、多くの鉱山で大量に稼行されている。

(3) 固結堆積物

a) 凝灰質砂岩・泥岩・礫岩・凝灰岩および亜炭 (tsm)

本層は土岐挟炭層と品野層および瑞浪層群を一括したものである。

図幅内ではおもに土岐市大平付近、山岡町原付近に分布するが、笠原町南方の県境の稜線付近にも分布がみられる。

土岐市大平付近に分布する土岐挟炭層は、泥岩、凝灰質泥岩、岩質の泥岩、砂岩、凝灰質砂岩および角礫岩よりなり、何枚かの亜炭層と凝灰岩が挟有される。

笠原町南方の稜線付近に分布する品野層はおもに角礫岩よりなり、泥岩、シルト岩、砂岩をともなり。厚さの変化が激しい。角礫岩は、砂岩、チャート、花崗岩などの不淘汰角礫よりなる。角礫岩は土岐挟炭層に由来する亜炭の破片と泥岩を含むことがある。

瑞浪層群の分布は山岡町地内にみられ、おもに凝灰質の泥岩と砂岩からなる。新鮮なときは特徴的な濃緑色をしているが、地表に露出して乾くと色があせ灰色から暗灰色になる。

b) 珪岩 (ch)

一般にチャートと呼ばれている岩石で、本図幅内の基盤の一部を構成している。

暗灰色、灰色、白色、赤色などさまざまな色を呈し、幅数cmの層理を示し、小褶曲をすることが多い。花崗岩類に近接する地域ではホルンフェルス化し、きわめて堅硬である。

c) 砂岩および泥質岩 (sm)

チャートと同様、図幅内の基盤を構成する。比較的砂岩の量が多い。岩質は風化帯を除いて堅硬であり、花崗岩類との接触部付近ではホルンフェルス化して一層堅硬となっている。

(4) 変成岩

a) 結晶片岩 (So)

領家変成岩類に該当し、花崗岩類に貫かれ、その捕獲岩体として断片的に分布する。

主に砂岩・泥岩を原岩とする雲母片岩からなる。

片状構造が明瞭に発達し、再結晶作用が全体にわたりすすんでいることで、熱変成作用を受けた中・古生界（ホルンフェルス）と区別される。

本岩は本来堅固な岩石であるが、風化がすすみ脆弱になっている。

(5) 深成岩

a) 花崗岩質岩石 (Gr)

伊奈川花崗岩、苗木花崗岩、武節花崗岩、天竜峡花崗岩、生田花崗岩に相当するもので、このうち伊奈川花崗岩が最大の面積を占める。すべて中・古生界に貫入し、強い熱変成作用を与えている。

粗粒角閃石黒雲母花崗岩～花崗閃緑岩を主体とし、中粒含普通輝石角閃石黒雲母花崗閃緑岩・粗粒黒雲母花崗岩・細粒黒雲母花崗閃緑岩・細粒黒雲母花崗岩・細粒白雲母黒雲母花崗岩などの岩相をともなう。

いずれも本来は堅硬な岩石であるが、浸蝕のすすんだ河川沿いを除いて全体に10m以上の深層風化をしており、「マサ」と呼ばれる砂状風化物を形成している。

資 料

- 1) 有井 琢磨(1958) 岐阜県岩村町付近の断層地形. 新地理, vol. 7, pp.110~120.
- 2) Fujii, Noriyuki (1968) Genesis of the Fireclay Deposits in Tajimi-Toki District, Gifu Prefecture, Central Japan. 地質調査所報告, №230 56p.
- 3) 糸魚川淳二(1974) 瑞浪層群の地質. 瑞浪市化石博物館報告, no.1 pp. 9~42.
- 4) 糸魚川淳二(1974) 瀬戸層群. 瑞浪市化石博物館報告, no.1 pp.373-383.
- 5) 糸魚川淳二(1980) 瑞浪地域の地質. 瑞浪市化石博物館専報 no.1, pp. 1~50.
- 6) 木宮 一邦(1971) 三河高原に分布する明智礫岩層について. 地質雑 vol. 77, pp.365-374.
- 7) 桑原 徹(1971) 瀬戸層群の堆積相. 竹原平一教授記念論文集 pp.113-128.
- 8) 長沢敬之助, 近藤善教(1977) 東濃地域粘土鉱床分布図. 岐阜県窯業原料資源調査委員会
- 9) 陶土団体研究グループ(1982) 岐阜県瑞浪市南部の瀬戸層群. 地団研専報 №24, pp143-155.
- 10) Uemura, Takeshi (1961) Tectonic development of the Miocene sedimentary basins of east Mino, Central Japan. Jour. Earth Sci. Nagoya Univ., vol. 9, no. 2, pp.394-417.
- 11) Uemura, Takeshi (1967) Geotectonic Studies on the Toki Miocene Sedimentary Basin, Central Japan. Jour. Earth Sci. Nagoya Univ., vol. 15, no.1. pp. 35~79

Ⅲ 土 壤

林 地 土 壤

瀬戸、明智、根羽図幅 林地土壌説明書

図の西部は、標高が低く、丘陵地形が多く分布し、東部では山地地形が多く分布する。

丘陵地は、図の西部には多治見市、土岐市下石町、妻木町を中心に標高約200mの東濃丘陵が広がっている。図の中央部には、土岐市鶴里町、曾木町、恵那郡明智町を中心に約400m～500mの美濃三河高原が広がっている。

山地は、図の東部には恵那郡串原村、上矢作町に恵那山地が広がり、最高点で約1,200mである。図の中部、西部では丘陵地をとり囲むように山地が分布する。

丘陵地は、花崗岩、新第三系の固結、未固結堆積物、中生界の堆積岩が土壌母材となっており、土層が薄い未熟土的な乾性土壌が多く分布し、生産力が低い地域が多い。

山地は、一部には中生界の堆積岩、結晶片岩類であるが大部分は花崗岩が土壌母材となっており、土層が厚く、適潤性土壌が多く、比較的生産力が高い地域が多い。

本図に出現する土壌は、土壌の母材、堆積様式、断面形態の特徴等により、表一1に示すとおり2土壌群、6土壌統群、17土壌統に細分できる。

1 褐色森林土

褐色森林土は、本図の大部分を占めている。尾根、斜面上部の乾性な土壌は、乾性褐色森林土壌、乾性赤色系森林土壌、乾性黄色系褐色森林土壌が分布している。乾性褐色森林土壌は全域に広く分布しているが、乾性赤色系褐色森林土壌、乾性黄色系褐色森林土壌は、西部に多く分布する。

斜面の中、下部には褐色森林土壌が分布する。

図の東部の山地には、湿性褐色森林土壌が斜面下部に小面積分布する。

(1) 乾性褐色森林土壌

乾性褐色森林土壌は、B_A、B⁻、B_Cに相当し、柿野統、明世統、高根権現1統、高戸山1統、曾木統、杉平1統の6統が分布する。乾性褐色森林土壌に生育する天然林は、この土壌の生産力が低い為、ヤセ地でも生育できるアカマツ林となることが多い。土層が薄い柿野統、高根権現1統、曾木統では、アカマツ天然林は矯性となる場合が多い。土層が厚く、柔らかい土壌である高戸山一統、杉平1統では、樹高が高く良形質の天然アカマツ林が多い。明世統は、アカマツと広葉樹の混交林となることが多い。

柿野統、高根権現1統におけるヒノキ人工林の幼令林、壮令林は、樹冠幅が狭く、スギに似た円錐形の独得な樹形となることが多い。

① 柿野統

新第三系の未固結砂礫を母材として、丘陵尾根、斜面上、中部に分布する。土性は埴質壤土である。

A_o層は、L、F—H層又はL、F、H層に分かれ、厚さ約3cmで乾性な土壌としてはそれ程厚くない。A層は、腐植がよく混入し黒褐色と黒いが、薄い層である。A_o層、A層の発達が悪く未熟土的傾向が強い。

石礫は、A層では割合少ないがB層で多い傾向である。

生産力が低い為、アカマツ天然林又はクロマツ植林地のマツ林が大部分を占める。下層は、ネザサ、ツツジ類、ネズミサシ、ネジキ等が生育する。

図の西部に分布する。

② 明世統

新第三系の凝灰質砂岩、泥岩等を母材として、丘陵尾根に分布する。土性は砂質壤土である。

A_o層は、L、F層が約5cmと厚く堆積し、H層が約1cm程度と薄い。粒状構造のA層又はA—B層が約10cmあり、乾性土壌にしては比較的腐植の浸透が深いが、土色は明るい傾向である。B層以下は、母材が風化しやすい為、土壌と母材が風化した半角礫が混在した比較的軟らかく、深い土層となっている。

植生は、主にクリ、コナラ、ヤマハンノキ等の落葉広葉樹が混交したアカマツ林で、下層にヒサカキ、コバノミツバツツジ、イヌツゲ等が多い。

図は西部、中央北部に分布する。

③ 高根権現1統

花崗岩類を母材として、主に丘陵尾根、山地尾根に分布する。土性は砂質壤土である。

A₀層は、L、F層が薄い、H層が約5cmと厚く発達する。鉍質土層への腐植の浸透が悪く、粒状～細粒状構造の薄いA層又はA-B層となる。花崗岩が風化したマサ土が残積した土壌で、各土層とも礫が少なく、B層下部まで軟らかである。

植生は、アカマツ林が多いが、一部にはヒノキ人工林が分布する。下層植生は、ヤマツツジ、リョウブ、ススキ、ワラビ等が生育する。

図の中央部に広く分布する。

④ 高戸山1統

花崗岩類を母材として主に山地尾根に分布する。土性は砂質壤土である。

A₀層はよく発達し、L層とF層が各々約3cm、H層が約1cmと厚い。鉍質土層は、花崗岩由来のマサ土がよく風化している為、土層が厚く、礫が少なく、軟らかい。鉍質土層の構造は、ゆるい尾根にも細粒状構造が発達するBAの分布が多い。串原村平山では乾性赤色系褐色森林土が屋根の小面積に混在する。

植生は、アカマツ林が多い。これらのアカマツ林は、初期の比較的樹高生長が良く、大径で形質の良い林分がある。下層植生は、ゴンゼツ、ヒメコマツ、ソヨゴ、アセビ、ネジキ、シロモジ等が多い。

図の東部に広く分布する。

⑤ 曾木統

主に中生界砂岩、チャートを母材として丘陵尾根に分布する。土性は埴質

壤土である。

層位は、A_o層、A層の発達が悪く、L—F層、H—A層となる場合が多い。B層は比較的明るい。緩い尾根では、B層下部が緻密な構造となり、カベ状構造が発達する場合もある。

B層は、母材が砂岩の場合には半角礫で混入が少ないが、チャートの場合には角礫で混入が多い傾向である。

植生は、大部分がアカマツ林でコナラがわずかに混交することが多い。下層植生は、ネジキ、ソヨゴ、ネズミサシ、モチツツジ等が生育する。

図の西部に分布する。

⑥ 杉平1統

結晶片岩類を母材として山地尾根、斜面上部に分布する。土性は壤土である。

A_o層は、約2cmのL層、約1cmのF—H層と薄い。A層は、粒状構造で暗褐色で約5cmと薄い場合が多い。B層は、粒状構造が良く発達し、軟らかく、厚い。B層は、赤色風化の影響があり、明褐色で明るい場合がある。明智町杉平の小面積では乾性赤色系褐色森林土壌が混在する。

礫は、A層、B層ともに少なく、半角礫がわずかに分布する。

植生は、アカマツ天然林が多い。幼齡のヒノキ人工林は、乾性土壌にしては比較的良い生育をする。アカマツ林の下層には、ヒメコマツ、ヒノキ、ソヨゴ、コナラ、バイカツツジ、リョウブ、ネジキ等が生育している。

図の東部に小面積分布する。

(2) 乾性赤色系褐色森林土壌

乾性赤色系褐色森林土壌は、rB_A、rB_B、rB_Cに相当し、大叡統、雨乞1統が分布する。この土壌の大部分は、粒状構造がよく発達し、赤色風化を受けたB層のrB_Bが分布し、後述の乾性黄色系褐色森林土とともに、本図中で最も生産力が低い土壌である。生長の悪いアカマツ天然林、クロマツ人工林が生育しており、スギ、ヒノキの人工造林には不適である。

① 大藪統

新第三系の未固結砂礫を母材として丘陵尾根、斜面上、中部に分布する。土性は埴質壤土～埴土である。

A₀、A層ともに薄く、層位の発達が悪く、未熟土的な土壌である。A層は黒褐色で黒く粒状構造の場合が多い。

礫は、円礫でチャートが多く、他の母材の礫ではクサって土壌化することが多い。B層下部は礫土となることが多い。

植生は、生育の悪いアカマツ、クロマツ林で、下層植生にはコバノミツバツツジ、モチツツジ、ヤマツツジ、イヌツゲ、ネザサ等が生育している。

図の西部に多いが、図東部の明智町にも小面積分布する。図の西部では乾性黄色系褐色森林土壌の肥田統と混在する。

② 雨乞1統

中生界砂岩、チャート等を母材として丘陵尾根、山地尾根に分布する。土性は砂質壤土～壤土である。

A₀層は、H層よりもL、F層が厚いが、約5 cm以上とよく発達する。A層はあまり発達しないのでA—B層となる場合が多い。A—B層、B層は比較的赤味が強い。

A層、B層ともに角礫を比較的多く含んでいる。

植生は、アカマツ林が大部分で、下層植生にはヤマツツジ、モチツツジ、ネジキ等が生育している。

図の西部、庄内川の西側を中心に分布する。

(3) 乾性黄色系褐色森林土壌

乾性黄色系褐色森林土壌は、yB_A、yB_B、yB_Cに相当し、肥田統が分布する。この土壌は赤色系褐色森林土壌の大藪統と混在するが分布は比較的少ない。本図中で最も生産力が低い土壌で、生長の悪いアカマツ天然林、クロマツ人工林が生育しており、スギ、ヒノキ人工造林には不向きである。

① 肥田統

新第三系の未固結砂礫を母材として、丘陵尾根、斜面上、中部に分布する。

土性は砂土～埴土の土壤である。

A層が砂質な場合、透水性が良く乾燥気味となる為、A_o層が厚く発達し、A層への腐植の浸透も多いが、埴質な場合にはA層の発達はあまり良くない。砂質な土壤よりも埴質な土壤の分布が広い。この土壤は、未熟土的傾向が強い。

B層は、強い埴質の土性で、円礫の混入が多く堅い土壤となる場合が多い。

植生は、アカマツ林が多く、下層にはマンサク、イヌツゲ、アセビ、ヒサカキ、ネザサ、ツツジ類等が生育する。

図の西部に分布する。

(4) 褐色森林土壤

褐色森林土壤は、B_D、B_D(d)に相当し、塩河統、酒井統、日吉統、高戸山2統、久田見統、杉平2統の6統が分布する。この土壤は、生産力が高く、木材価値の高いスギ、ヒノキの育成に適している。又、既に天然林からスギ、ヒノキ人工林への転換がかなり進んでいる。塩河統、日吉統は崩積性の土壤に現われ、酒井統、高戸山2統、久田見統、杉平2統では匍行～崩積性の土壤に多い。

① 塩河統

新第三系の未固結砂礫を母材として丘陵斜面下部に分布し、未熟な傾向の土壤である。土性は砂土～埴土である。

A_o層は、適潤性土壤であっても比較的厚いF、H層がある。A層は約10cm位であるが構造がない場合が多く、腐植の混入が少ないため褐灰色等の淡色を呈する。B層は明褐色の明るい色を呈し、埴質が強い。

礫は、円礫がよくクサっておりA、B層ともに少ない。

植生は、アカマツ、クロマツ、コナラ林が多く、下層にはコバノミツバツツジ、シャシャンボ、ネズミサシ、ネザサ等が生育する。

図の北部、西部に分布する。

② 酒井統

新第三系凝灰質砂岩、泥岩を母材として丘陵斜面下部、山地斜面下部に分布する。土性は埴質壤土～埴土である。

A₀層は、F層が薄くあまり発達しない。A層は約15cmで暗褐色と黒味が強く、塊状～団粒状構造である。B層は、黄色味が強い傾向である。山地ではわずかに腐植の混入が認められ塊状～固粒状構造が発達する場合がある。

礫は、母材が軟らかい為風化が比較的進んだ半角礫で、A層では少ないがB層で多い。

植生はヤマザクラ、コナラ、エゴノキ等の落葉広葉樹林で、下層にはアセビ、アラカシ、ムラサキシキブ等が生育する。

図の北西部、中央北部に分布する。

③ 日吉統

花崗岩類を母材として主に丘陵斜面下部に分布する。土性は砂質壤土～埴土である。

A₀層は、比較的厚く、F、H層が厚く発達する。A層は約15cmで暗褐色を呈し、団粒構造が比較的良好に発達し軟らかい。

礫は、A、B層ともに少ない場合が多い。

植生は、アカマツ林、又はコナラ、ヤマザクラ等の落葉広葉樹林で、下層にはヒサカキ、シラカシ、アラカシ、リョウブ等が生育する。

図の中央部に広く分布する。

④ 高戸山2統

花崗岩類を母材として山地斜面中、下部に分布する。土性は埴質壤土である。

A₀層はL、F、H層が発達し、適潤性土壌としては厚い。

A層は厚く暗褐色である。表層では透水が良く乾燥し易いため粒状構造をとる場合があるが、下部は団粒状構造が発達する。

A、B層とも母材が風化した小礫が多い。

植生は、スギ、ヒノキ人工林が多い。天然林では、コナラ、クリ、アズキナシ、アカシデ等の落葉広葉樹林で下層にはコバノミツバツツジ、ゼンマイ、シシガシラ、ワラビ等が生育する。

図の東部、中央南部に広く分布する。

⑤ 久田見統

主に中生界砂岩、チャート等を母材として丘陵斜面下部、山地斜面下部に分布する。土性は砂質壤土～壤土で、母材が砂岩の場合には砂質が強い。

A₀層は、薄いL層が発達する。A層は約10cmであるが、暗褐色で団粒状構造が発達する。

礫は、チャート母材の場合にはA、B層ともに多く、下層ほど多くなる。崖錐地形では礫土となる場合がある。砂岩母材の場合には礫が少ない。

植生は、アラカシ、コナラ、クリ、アカメガシワ等の広葉樹林が多く、下層にイヌガヤ、アオキ等が生育する。

図の西部に分布する。

⑥ 杉平2統

結晶片岩類を母材として山地の斜面に分布する。土性は壤土～埴質壤土である。

A₀層はL、F層が堆積する。A層は、20cm位で団粒構造がよく発達する。礫は半角礫である。ほ行土、残積土では礫が少ないが、崩積土では礫が多い。

植生は、スギ人工林又はクリ、コナラ、ホオノキ等の落葉広葉樹林であり、下層にはササ類、ショウジョウバカマ、コアジサイ等が生育する。

図の東部にわずかに分布する。

(5) 湿性褐色森林土壌

湿性褐色森林土壌は、B_Dに相当し高戸山3統が含まれる。高戸山3統は花崗岩を母材として山地下部に分布する。土性は砂質壤土～埴質壤土である。

薄いAo層がある。A層は黒褐色で約50cmと厚い。団粒構造がよく発達し、軟らかい。

スギ、ヒノキ人工林の分布が多く、図中では最も生長の良い土壌である。しかし、ヒノキは、過湿のためトックリ病の被害が多く、ヒノキ人工植栽は適さない。下層植生は、アセビ、トウゲシバ、ツルリンドウ、ウツギ、スゲ類、ササ類が生育する。

2 黒ボク土

黒ボク土は、図の東部に小面積を占めているだけである。火山灰を母材として、斜面下部、尾根の緩傾斜地に分布する。

黒ボク土壌は、Bl_D(d)、Bl_D、Bl_Eに相当するがBl_Dの分布が多い。木の実統が含まれる。

Ao層は、薄いものから5cm位と厚いものがある。A層は約50cm以下が多く、1m以上と厚いものは少ない。

A層では花崗岩風化の小礫がわずかに分布することが多い。B層では、約20%以上の礫含有率と多いことが多い。

植生は、ヒノキ人工林が多いが、天然林では、アカマツ林、コナラ、アベマキ、クリ等の落葉広葉樹林となっている。下層植生は、ネザサ、サルトリイバラ、モチツツジ、モミジイチゴ、コアジサイ、イヌツゲ等が生育する。

表一 1 土壤統一覽表

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統	母 材	地 形	
褐色森林土	乾性褐色森林土壤	柿野統	新第三系未固結砂礫	丘陵尾根、斜面上、中部	
		明世統	新第三系凝灰質砂岩、泥岩等	丘陵尾根	
		高根権現1統	花崗岩類	丘陵尾根、斜面上部、山地尾根、斜面上部	
		高戸山1統	花崗岩類	山地尾根、斜面上部	
		曾木統	中生界砂岩、チャート等	丘陵尾根	
		杉平1統	結晶片岩	山地尾根	
	乾性赤色系褐色森林土壤	大叡統	新第三系未固結砂礫	丘陵尾根、斜面上、中部	
		雨乞1統	中生界砂岩、チャート等	丘陵尾根、山地尾根	
	乾性黄色系褐色森林土壤	肥田統	新第三系未固結砂礫	丘陵尾根、斜面上、中部	
	褐色森林土壤	塩河統	新第三系未固結砂礫	丘陵斜面下部	
		酒井統	新第三系凝灰質砂岩、泥岩	丘陵斜面下部、山地斜面下部	
		日吉統	花崗岩類	丘陵斜面下部、山地斜面下部	
		高戸山2統	花崗岩類	山地斜面中、下部	
		久田見統	中生界砂岩、チャート等	丘陵斜面下部、山地斜面下部	
		杉平2統	結晶片岩	山地斜面	
	湿性褐色森林土壤	高戸山3統	花崗岩類	山地斜面下部	
	黒ボク土	黒ボク土壤	木ノ実統	火山灰	緩斜地

農 地 土 壤

1 調査地域の概要

本図幅は多治見市南部―笠原町―土岐市南部―山岡町―串原村―上矢作町に亘る地域が該当し、水田及び畑地の総面積は約730haとなっている。また地域別の面積は多治見市南部41ha、笠原町40ha、土岐市南部176ha、明智町275ha、上矢作町132ha及び串原村64haとなっている。

土壌群別の面積は黒ボク土97ha、赤黄色土40ha、褐色低地土34ha、灰色低地土410ha及びグライ土147haとなっている。

(1) 土壌群別の分布

黒ボク土は土岐市南部に79haとまとまって分布しており、この他明智町及び上矢作町に散在している。赤黄色土は笠原町、明智町及び上矢作町に散在している。褐色低地土は多治見市南部及び明智町に散在している。灰色低地土は明智町及び上矢作町に100ha以上まとまって分布しており、この他、多治見市南部、土岐市南部、笠原町及び串原村に散在している。グライ土は明智町に90haとまとまって分布しており、この他多治見市南部、土岐市南部及び串原村に散在している。

(2) 地域別の水田土壌分布

多治見市南部の水田は褐色低地土壌、粗粒・灰色低地土壌及び細粒グライ土壌の4土壌統群からなっており、このうち、褐色低地土壌が24haと水田面積の大部分を占めている。

土岐市南部の水田は多湿黒ボク土壌、黒ボクグライ土壌、細粒・粗粒・灰色低地土壌及び細粒グライ土壌の6土壌群からなっており、このうち多湿黒ボク土壌及び細粒灰色低地土壌で水田面積の50%以上占めている。

笠原町の水田は黄色土壌、灰色低地土壌及び粗粒灰色低地土壌の3土壌統群からなっており、灰色低地土壌が水田面積の50%以上占めている。

明智町の水田は多湿黒ボク土壌、黄色土壌、褐色低地土壌、細粒・粗粒・灰色低地土壌、及び細粒・グライ土壌の8土壌統群からなっており、このうち灰色低地土の150ha及びグライ土の90haで水田面積の約90%を占めている。

上矢作町の水田は、多湿黒ボク土壌、黄色土壌及び細粒・粗粒・灰色低地土壌の5土壌統群からなっており、灰色低地土が111haと水田面積の80%を占めている。

串原村の水田は細粒・粗粒・灰色低地土壌及び細粒・グライ土壌の5土壌統群からなっているが、灰色低地土で水田面積の大部分を占めている。

(3) 地域別の畑地土壌分布

多治見市南部の畑地は黄色土壌からなっており、面積は5haと極く僅かとなっている。

土岐市南部の畑地は厚層黒ボク土壌からなっており、面積は50haと比較的まとまっている。

笠原町の畑地は黄色土壌からなっており、面積は10haの程度となっている。

明智町の畑地は厚層・黒ボク土壌及び粗粒灰色低地土壌の3土壌統群からなっており、町内に散在している。

上矢作町の畑地は厚層黒ボク土壌、黄色土壌及び粗粒灰色低地土壌の4土壌統群からなっており、厚層黒ボク土壌及び黄色土壌の面積は比較的多いが、町内に散在している。

串原村の畑地は厚層・黒ボク土壌及び黄色土壌の3土壌統群からなっているが、面積は小さく、村内に散在している。

2 土壌調査の方法

水田及び畑地土壌生産性分級図など既存資料を参考にし、不明場所については現地調査を実施した。

3 参考とした資料

水田および畑地土壌生産性分級図	岐阜県農場試験場
地力保全基本調査に基づく土壌管理方針1978	岐阜県農政部
土壌統の設定基準および土壌統一覧表	農林省農業技術研究所 化学部

市町村別、土壌統群面積

(1) 水田

市町村名	土 壌 群	土 壌 統 群	土壌統群番号	分布面積(ha)
多 治 見 市	褐色低地土	褐色低地土壌	12	24
	灰色低地土	灰色低地土壌	13	6
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	5
	グライ土	細粒グライ土壌	14	6
土 岐 市	黒ボク土	多湿黒ボク土壌	04	54
	〃	黒ボクグライ土壌	05	25
	灰色低地土	細粒灰色低地土壌	13	41
	〃	灰色低地土壌	〃	18
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	5
	グライ土	細粒グライ土壌	14	33
笠 原 町	赤黄色土	黄色土壌	10	12
	灰色低地土	灰色低地土壌	13	22
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	6
明 智 町	黒ボク土	多湿黒ボク土壌	04	5
	赤黄色土	黄色土壌	10	20
	褐色低地土	褐色低地土壌	12	10
	灰色低地土	細粒灰色低地土壌	13	75
	〃	灰色低地土壌	〃	40
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	35
	グライ土	細粒グライ土壌	14	63
〃	グライ土壌	〃	27	
上 矢 作 町	黒ボク土	多質黒ボク土壌	04	13
	赤黄色土	黄色土壌	10	8
	灰色低地土	細粒灰色低地土壌	13	23
	〃	灰色低地土壌	〃	64
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	24

市町村名	土 壤 群	土 壤 統 群	土壌統群番号	分布面積(ha)
串 原 村	灰色低地土	細粗灰色低地土壌	13	16
	〃	灰 色 低 地 土 壌	〃	14
	〃	粗粒灰色低地土壌	〃	16
	グ ラ イ 土	細粒グライ土壌	14	15
	〃	粗粗グライ土壌	〃	3

(2) 畑地

市町村名	土 壤 群	土 壤 統 群	土壌統群番号	分布面積(ha)
多 治 見 市	赤黄色土	黄 色 土 壌	10	5
土 岐 市	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	03	50
笠 原 町	赤黄色土	黄 色 土 壌	10	10
明 智 町	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	03	44
	〃	黒 ボ ク 土 壌	〃	14
	灰色低地土	粗粒灰色低地土壌	13	12
上 矢 作 町	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	03	49
	赤黄色土	黄 色 土 壌	10	59
	灰色低地土	粗粒灰色低地土壌	13	22
串 原 村	黒ボク土	厚層黒ボク土壌	03	21
	〃	黒 ボ ク 土 壌	〃	5
	赤黄色土	黄 色 土 壌	10	10

Ⅳ 土地利用現況

1 農 地

本図幅の地形は丘陵～山地地形のため、農地は中小河川に沿って散在している。その大半は水田として利用され、稲作が行われている。

図幅西部の市街地周辺では、都市近郊型の蔬菜類生産も盛んである。

稲作以外の山間地の農地としては、恵那郡串原村の桑、明智町の桑、茶の栽培がある。

また、恵那郡上矢作町においては大規模な乳用牛の放牧経営がなされている。

2 林 地

本図幅西部の丘陵地は、生産力の低い林地である。乾性土壌のため大半がアカマツ及びアカマツと広葉樹の混交林となっている。

また、昭和20年代の乱伐により「はげ山」と化した箇所跡地には、治山事業でクロマツの人工林造成が行われている。

この丘陵地は、中京圏からのアクセスが良く、傾斜が緩やかで造成が容易なことから、宅地造成・工場団地・ゴルフ場造成等の計画が多くあり、今後人工改変されることが予想される。

明智町以東の山地は、花崗岩を基石とした適潤性土壌が多くヒノキ、スギの人工造林地となっている。

3 市街地、集落等

国道19号に沿って多治見市、土岐市、瑞浪市と市街地が形成されているが、これら都市の南部及び土岐郡笠原町の市街地が図幅西方にある。

この地域では、古くから陶器、磁器の生産地として集落が発展し、市街地を形成した。

近年は、隣接する愛知県の影響を強く受け、特に多治見市は名古屋市へのベッドタウンとして住宅団地の開発が進んでいる。

また、国道363号に沿って猿爪（瑞浪市）や恵那郡明智町の市街地が発達している。

多治見市から恵那郡山岡町にかけては、陶磁器材料である陶土やケイ砂の採掘が各所で行われている。

丘陵地を開発したゴルフ場が多く、今後も増加が予想される。

土地開発の特徴的なものとしては、多治見市や甘原町及び諏訪町地内に大規模な産業廃棄物の最終処理場がある。

鉄道は、国鉄中央本線及び太多線が図幅左上端にある。

また、恵那市と恵那郡明智町を結ぶ第3セクターによる明智鉄道がある。

道路網は良く発達し、中央自動車道、国道19号が東西の基幹道路となっており、図幅左上端に現われる。

春日井市とは国道19号、瀬戸市とは国道248号線、363号線及び愛岐道路（県道）で接続するなど、愛知県との交通路も良く発達している。

岐阜県企画部土地対策課

〃

（小池芳雄）
（服部富雄）

1987年3月 印刷発行

岐阜県土地分類基本調査

瀬戸・明智・根羽

編集発行 岐阜県企画部土地対策課

〒500 岐阜市藪田1-1
電話 (0582) 72-1111

印刷 日新印刷株式会社
岐阜市蔵前7丁目12番21号